

じやりみち

2児のパパ
いっちゃん あはは



…仮設支援情報…

第37号 発行日 97.3.20

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923

E-mail:ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号:01180-6-68556 (郵便振替)

気づいて下さいました?じやりみちの宛名が手書きじゃなくなったの。そうです。やつと入力
ができたんです。この名簿をつくるのにどれだけの方にお世話になったか…!まだちょっと間違
いもあるので手直しが必要ですが、本当にありがとうございました(涙)。また、今発送されて
いる封筒も、みなさんが送ってくださったものもはいつています。ありがとうございます! なる
べく資源を大切にしていきたいと考えていますので、またご協力お願いいたしますね。…という
ことで前置きが長くなってしまいましたが、次回のお知らせです。

次回全体会は 3月26日(水) 18:30~ 事務局1Fにて

「全体会の報告

提言・提案チームをつくろう/来年度事業方針案の検討

前回の全体会は、まず前回のざっくばらんで話し合われた「提言・提案」をどうしていこう?というこ
とが話し合われました。どうやって行政やいろいろなところに提言活動をしていくのか、どこを訴えるの
か?ということを検討するチームをつくろうということで話を進め、とりあえず有志で集まり、検討して
いくことになりました。そのあとは、事前に各団体さんの中で「仮設」NGOの事業に関わっているとこ
ろから出していただいた事業報告をもとに、来年度の事業案を作成して検討をしました。共同プロジェク
トの中に引越しをどう組み込むか、収益事業として何が必要なのか?そして全国とのネットワーク
は…?というかんじに進み、新しい構想の「NGO共生・共創センター(仮称)」というようなものを
立ち上げたいということで少し時間がなくなり、次回ざっくばらんに持ち越されました。

ざっくばらん報告

NGO共生・共創センター(仮称)は必要なんやろか?

3月19日(水)に話し合われた「ざっくばらん」。前回の全体会で出てきた新しい事業としての「共生・共創センター
(仮称)」について、この必要性和展開についてざっくばらんに意見を出示してもらいました。

趣旨:震災後3年目を迎え、被災者の生活再建が未だままならない状況の中、被災者に必要とされる
のは「生きがいつくり」や「就労の機会」、そして安心して暮らせる「コミュニティつくり」であ
る。その糸口となるものとして立ちあげたい。

内容としては・共同作業所づくり/医療・保健・福祉相談所の設置/リサイクルショップの運営/被災者が
つくるグッズを集め、販売する/引越を伴う復興公営住宅でのケアなど。

あるアジアの例:ライ病的診療所。診療所があ
ることで住民の働く場がで、その中にリサイ
クルショップを設けることで人が集まる。またライ
病の研究のために研究者も集まり、そしてそれら
全てがWHOへの提言活動につながっている。そ
こには学校もあるし、ボランティアもいて。とて
も成功している例。ここもそんな風になれば。

リサイクルは若者向け、医療は老人
向け、あとは男性が参加できる視点が
必要では?たとえば、炊き出しをして
いて感じたのが「ごはん」ものは男性
がよく集まる。食堂したら?

デーンとでかいのじゃなくて、
ちっさくていいんちゃう?

特技と言っても何が特技なのかわ
からへん人のが多いんちゃう?その
人が自分の特技を見つけられるよう
な催し物をいろいろと立ちあげるも
のいいかも。

お風呂やさんやろう!入浴
サービスもできる!!

必要!!

今までの活動の集大成みたいなもんやね

これはもう被災地だけの問題やない。
ここから発信していけたら。

やはり地元の人に受け入れら
れなくてはダメ。地道に地域の
人たちと一緒につくっていきだ
い。

「NGO」というものが定着していない日
本。行政にも市民にも「NGO」というもの
がもっと理解されないと。だからあくまでい
ろいろなNGOが参加する上で作り上げてい
きたいな。

人が集まれること・地域の人に受け入れられるこ
と・資金の確保・継続性の4点をあさえることが
できたらできる!?

形になっていけば見えやすいし、後方支援がしやすいし。

こんな意見が続々と出て、次回の全体会でこれらを具体的に進めていくメンバーを募ろうということになりました。

< 仮設は今... >

冬の間あんなに冷たかった風が、少しずつ春の陽気に温められて、ほのかに花の香りを運んで来るようになりました。その時、ふと思うのです。

“仮設の寒さも和らいだかしら・・・”と。

私が初めて神戸の仮設住宅を訪ねたのは去年の暮れ。年の瀬の慌ただしさはどこか遠い世界のように感じられ、不思議な戸惑いを覚えながらクリスマス会に参加したのがきっかけです。震災から三度目の冬を迎え、京都に住む私は、正直いうと今ごろからボランティアを始めても遅すぎるかもしれない。まだ何かお手伝いできることはあるのかしら・・・などと勝手に思い込んでいました。なぜならTVで見る限りでは、日に日に進む神戸の復興の様子が伝えられ、仮設に住む人達にも笑顔が戻って来たかのような映像を目にしていたからです。けれども一度は現地へ行って、実際に自分の目で確かめずにはいられないーそんな想いで長田を訪ね、かれこれ三ヶ月が経ちました。その間、ただ夢中で一つ一つの出会いを重ねていくうちに、今までの人生にはなかった新しい発見をいろいろと体験することができました。

まず最初に驚いたのは、“仮設の冬は冷たい”ということ。冬は冷たくて当たり前、とはいっても、とにかく鉄板のプレハブ住宅では夏の暑さも冬の寒さも一日中和らく事はなく、お年寄りとして情け容赦がありません。それくらい厳しいかは、実際に住んでみなければたぶん想像もつかないでしょう。『ここは何しろ寒くて、夜もよう寝られせんわ・・・』という声を、まるで合い言葉のように行く先々で耳にしました。火気への配慮から自由に灯油が使えず、ましてや夜になるとエアコンだけではとても間に合わない・・・しかも電気代はかさむ。特にひとり暮らしのお年寄りの口から、日常生活の不自由さや寂しさを聞いたりすると、“孤独死”という言葉がにわかに頭をがすめて、何とも辛くやるせない想いに胸が痛むのでした。

もちろん、そういう暗い話題ばかりではありません。むしろこちらの方が印象深いのですが、仮設というコミュニティの中で、住民の方がお互いに助け合いながら精一杯明るく生きておられるこ

とに深く感動しました。食事会の賑やかなひとときや、昔の思い出話に花が咲くとき、一人一人の表情が素晴らしく生き生きと輝くのです。一緒にいると私の方が勇気づけられ元気を分けてもらえるくらいに。

けれども誰もが口を揃えておっしゃいます。

“一日も早くここを出て、元の場所に帰りたい。”と。かつての住み慣れた地域が、当時と同じ姿で再建されることはないにしても、故郷への復帰にそれぞれの夢を託しておられるのでしょう。やもすればあきらめムードにながされそうな被災者の不安な心情が、彼らの笑顔の向こう側にふと見え隠れしています。

思えば震災からまる二年が過ぎ、被災地に求められているものも大きく変わってきました。壊れた家屋の撤去や物資の調達など、主にモノ的な援助から始まって、今、感じるのはこころのケアの大切さ、そして自立。長引く仮設での生活に疲れ果て、将来の希望を持たない人。新しい住宅に移っても馴染めずに悩む人。お世話しながらストレスを溜めこむボランティア・・・。まるでどこか現代（いま）の日本の社会を映し出す鏡のように思えてくるのです。

誰しも人から与えられた何かではなく、自分の価値を自ら創り出そうとして懸命に生きています。でも、あの日多くを失った彼らには元の生活を取り戻すことさえままならず、他人事（ひとごと）としてこのまき放っておけない状況が目の前にあります。そのくらい今、被災者の自立と仮設の存在そのものが大きな意味を持ち、この現実を解決することは、実は私たちみんなの未来に光を当てることになると思っています。きっと大きな可能性を開く道とも繋がっているのではないでしょう。そのためにも仮設の声を全国に伝えたい、彼らの笑顔と涙をたくさんの人に知ってほしい・・・そんなことを心に想い巡らす今日この頃です。

日に日に暖かくなり、春を待つ彼らのもとに一日も早く本当の春が訪れるように祈りつつ・・・今日もまた一歩前に進もう！！

いひだ まゆ子



阪神大震災復興3年目 隠された現実を見よう

15日、県の教育会館でSVAの報告会がありました。この2年間一緒にがんばってきたSVAさんが今月をもって終了し、東京の本部に移ってしまいます。もちろん地元のグループが引き続き活動を行っていき、また東京で後方支援として活動してくださるのですが、こういったようにやはり様々な形で撤退や終了を迎えざるを得ないところも少なくありません。しかし、被災地の問題が終わったわけでは決してありません。あちこちにいろいろな課題が見えかくれしているのです。そんなことを考えていたときにふと見つけた記事です。わかりやすいかな？と思って転載してみました。

阪神大震災から2年と1カ月がたち、私の震災取材も3年目に入った。そんな矢先、「まだ震災の取材、やってるん？」と被災地に近い大阪府吹田市の友人に言われ驚かされた。被災地出身のある国会議員は、別の議員に「まだ仮設住宅ってあるの？」と真顔で聞かれ、返す言葉を失ったという。がれきは街角からなくなり、屋根のビニールシートも消えた。しかし目に見えにくい、また数字では表せない暮らしや心の「復興」はこれからが重要だ。これまでも被災地内外の温度差は常に感じてきたが、改めて「震災は終わった」というイメージが広がっている現実、ショックを感じる。多くの被災者にとって、震災との闘いは今も日々続いていることを知ってほしい。

1月13、14日の「与党阪神・淡路大震災復興対策プロジェクトチーム」（村岡兼造座長、6人）の被災地視察。メンバーの1人で、地元の兵庫県宝塚市で震災ボランティアをし、昨年の衆院選で初当選した社民党（比例代表近畿ブロック）の中川智子さん（49）は最初の視察メニューに「一般の仮設住宅が入っていない」と怒った。

予定された視察先は高齢者、障害者用のケア付き仮設住宅、計画通りに完成した災害復興公営住宅、震災で駅舎が倒壊したが福祉モデル駅として再建計画が進む阪急伊丹駅・・・など。「早期復興」を目指す被災自治体が“お客さん”に見せたいものや、「震災はもう終わった。公的支援はできない」としてきた「中央」の人間が見たいものばかりだ。いまだに約6万6000人、3万7000世帯以上が暮らし一般の仮設住宅をどうして見ようとするのか。中川さんの抗議で結局、神戸市西区の仮設住宅1カ所、30分だけの視察が追加された。

「被災感覚」のまひ症状は残念ながら“身内”にもある。関連死も含めた震災犠牲者が被災市町で4番目に多い118人を数える宝塚市は、震災2年の1月17日前後に市主催の追悼行事を行おうとしなかった。県から通達された半旗掲揚と黙とうだけが追悼の意思表示。「県の指示がなかった」として記帳所すら設けなかった。市長ら幹部は「いつまでもきりがいいので区切りが必要。犠牲者のことを忘れてはいけない」というが、今も市内32カ所に仮設住宅が並ぶ現実、とても区切りをつけられる状況ではない。

結局、1月17日の直前に突然、民間団体から同市へ花の寄付があり、急きょ市長らが犠牲者遺族宅を回って手

渡した。予定外の“市主催”追悼行事に忙殺される市幹部の姿勢は、あまりに情けなかった。

発生から2年間で、鉄道や道路、港など社会基盤の復旧はほぼ順調に進んだといえるが、被災者間の格差は広がり、新たな問題もそこかしこで生じている。

仮設住宅では、自宅を再建したり、災害復興公営住宅に応募して、恒久住宅へ移る人が目立ち始めている。自治体によっては仮設住宅の統廃合も始まっている。

尼崎市内の仮設住宅に一人暮らし女性（56）は、「ええかげん、仮設を出たいわ」と切実に語る。しかし現実には震災後、思うように仕事がなく、持病も悪化し、仮設住宅を出て1カ月5000円余りの公営住宅家賃を払い続ける自信はない。「まだ仮設にのりたわ」と矛盾する気持ちが同居し、3月27日から始まる公営住宅3次募集への応募もためらっている。

子供を亡くした神戸市内の女性（33）は震災直後、がれきの中でうなだれる夫を「今は泣いたらあかん。しっかりして」と励ました。だがこの気丈な女性は今、PTSD（心的外傷後ストレス症候群）で通院している。被災体験がよみがえるフラッシュバックや不眠が続き、仕事も休みがちだ。「何をしてやればいいのか」と、夫は途方に暮れている。

今年の「1月17日午前5時46分」。私は小さなお地蔵様が建つ神戸市長田区の高台の更地にいた。そして更地の持ち主、明石健司さん（38）のおえつが静かな闇に響いた。がれきと化したマイホーム、生後4カ月の二男の死。ダブルローンを抱えるうえ、家を建てる前のように壁建設だけで約1500万円が必要で、自宅再建のめどは今も立たない。でも「どうしても、この場所に戻ってきたい。また家族で暮らしたい」。肩を震わせお地蔵様にすがり姿に、声を掛けられなかった。

高台から夜の神戸の街を見下ろすと、昨年秋に全線復旧した阪神高速道路や高層マンションの光が輝いて見える。だが、家を、家族を、職を失い、それでも生きていかなければならない被災者たちの苦しい暮らしが、闇の中に隠されている。被災地外という“高台”からは「復興」という光の部分だけはよく見えるのかもしれない。だが、人々の復興はまだ遠く、被災者の表情には輝きのかけらもないと感じる。光の当たらない部分の報道が、これまで以上に重要になっている。



去年の暮れから始まった演劇キャラバン。プロジェクト1-2（ワン・ツー）の有光るみさんと事務局鈴木隆太の震災の体験を語り劇というかたちで演じます。防災フォーラムの時に東京と神奈川で行ったのですが、「わかりやすい」「はいつてきやすい」と大成功に終わりました。なんとわざわざ神戸まで隆太にサインをもらいに来るしまつ。すでに2、3次の公演が入っていますので紹介します。

♠3/21（金）

震災体験「語り劇」

てくてく～僕らの歩いたガレキの街～

19:00～ 入場無料

南方解放会館（淀川区）06-322-9200

「泣くも笑うも一日や、笑って一日過ごそうや」



その次は…

◆5/10（土）神奈川県 藤沢市

▲7/15（火）神奈川県横浜市青葉区

詳しくはわかり次第お知らせします。



情報コーナー

まつり

♣3/29（土）

長田どんちゃん春祭り

10:00～18:00 入場無料（雨天決行）

菅原市場東側駐車場にて

超巨大なべ出現!! どんちゃん市（フリーマーケット）

沖縄エイサー、ソウルフードモノガミット、中国舞踊、神戸太鼓、etc

問い合わせ：078-521-7170 すたあと長田内

長田どんちゃん実行委員会事務局



劇

★3/21（金）・3/22（土）・3/23（日）

太陽と月とケーキ

21日19:00～22日14:00と18:00/23日13:00と17:00

神戸アートビレッジセンターB1F 当日1500円全席自由

問い合わせ：078-222-9193 劇団赤鬼制作部



重油



♠3/23～26・3/26～29

重油回収ボランティア大募集

3泊4日で神戸・大阪から石川県に無料バスが出ます。（行き 神戸発17:30 加賀着22:00/ 帰）

加賀発12:30 神戸着17:00）

集合場所、持ち物、宿泊など詳しいことは

・神戸発着便 078-842-2073 神戸元気村

（9:30～22:00）

・大阪発着便 06-942-5161 大阪JC

市民＝議員立法



●3/22（土）

「議員立法」説明会

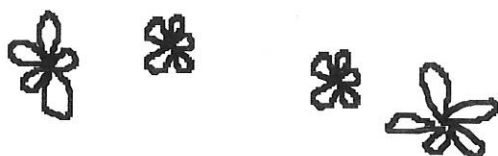
10:00～12:00

西神中央西区民センター第1会議室（078-991-8321）

講師：立法推進主任弁護士 伊賀興一氏

問い合わせ：078-577-8890 市民＝議員立法実現推進

本部・神戸 担当東條（080121-9709）



フリーマーケット

♥3/22（土）・3/23（日）

♡ありがとう須佐野公園 感謝フリーマーケット♡

10:00～15:00（雨天中止）

須佐野公園 参加無料

2年間お世話になった須佐野公園ともお別れ。ぜひ来てください！

問い合わせ：078-671-1442 ちびくろ救援ぐるうぷ

展示

◆5/3（土）～11（日）

「灰谷健次郎といのちの広場」展

フェニックスプラザ 10:00～19:00

■5/5（月）

トーク&うた「永六輔・高石ともや・灰谷健次郎といのちのための三重奏」

神戸ハーバーランド 神戸新聞松方ホール 14:00～17:00

実行委員会を設けているのでぜひご参加ください。

問い合わせ：030-160-3816 村井まで

く・だ・さ・い♡♡



♣封筒・切手・文具…くださいませ

じやりみち発送用の封筒、切手、その他も3も3なにかあったらくださいませ♡

また、いつも送ってくださっている方、本当にありがとうございます!! じやりみちを読んでくださってるんだなあって、なんかとてもやりがいがあるんです。

今回はちよつと本の紹介をします。またいいのがあったらぼちぼち紹介していこうと思います。

マンガ 愛ちゃんの神戸巡回日記

一三度目の冬が来たー

たけしま さよ著

三度目の冬が来た。著者の分身である「愛ちゃん」は今も巡回活動が続ける。この作品は神戸YWCA救援センターの活動の中から生まれ、当初はボランティア初心者のおりエンターション用として使われた。今はどんどん深刻化していく被災地の現状に「話を聞くことしかできないけれど」と言いながら、未だに公園での生活を送っている人々に対して居住権問題、生活保護の相談など、地道な活動が続けている。

A5判80頁 定価 824円 出版社：長征社

TEL/FAX 078-371-6491



大震災・市民編 1995

インタビューを基調に体験記、ルポ、写真で構成する震災400日の記録。

ルポ：猪熊弘子/松宮満ほか

写真：北川一夫/外山ひとみ/米谷昌子ほか

A5判880頁 定価4944円 出版社：長征社

風が運んだ救援隊

震災ボランティアの活動と被災地にいきる人々の姿。がれきに咲いた写真集。

北川幸三著 AB判132頁 定価2,884円 出版社：長征社



これらの本に関する注文・お問い合わせは事務局で結構です。078-578-6922 (FAX:078-578-6923)